令和元年度指定

地域との協働による
高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
研究開発実施報告書（2年次）

令和3年3月　熊本県立上天草高等学校

令和元年度指定　地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）　研究開発実施報告書（2年次）
令和3年3月　熊本県立上天草高等学校

巻頭言

本校は、令和元年度（２０１９年度）より文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受け、取組の名称も「Ｋ＃Ａｍａｘ」と定め、「上天草を愛し」「上天草を支え」「夢を追い続ける」生徒の育成を目指し全校を挙げて取り組んできました。２年目の今年度は内容をさらに充実させ取組を進めることとしていましたが、そこを襲ったのが新型コロナウイルスでした。

休校の措置、さらには密の回避等といった感染拡大防止対策を講じる必要から、当初予定していた活動が実施できず、実施しても規模を縮小するといった方法での内容となりました。さらには、参加を計画していたコンテスト等も中止が続き、成果発表の機会も大きく減少してしまいました。

様々なことが失われていく中で、気付いたことや得たものもありました。第一にＩＣＴの有効性です。外部講師を招いての講義等ができなくなったものの、オンラインで遠方の方のお話をお聞きしたり、指導を受けるといったことを試みました。今後も、遠隔地の方とオンラインで繋がることを積極的に実施したいと考えており、成果の発表といった発信面でもＩＣＴの活用を図る予定です。第二に、遠方への移動が制限され活動の空間的な幅は狭められたことで、身近な地域との関係を深いものにできたということです。昨年以上に生徒自身が地域の「現場」へと出向き、地域との方から協力を得た分、地域社会との関係は強いものとなりました。現場で実情を肌身で知るという経験は、オンラインだけでは得られない貴重な機会だということを実感できた次第です。加えて、地域との連携の深化という観点から、生徒の探究活動のさらなる質向上のためにも本校のコンソーシアムの機能を拡充させていくことをコンソーシアム委員会内で確認しました。このような気付きはコロナ禍で本活動の在り方を考える中で得られたものであり、学校にとっても意義ある時期であったととらえています。

さて、先日、中央教育審議会から答申（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して）が出されましたが、その中で言及されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくというこれからの教育の方向性に、本校の「Ｋ＃Ａｍａｘ」はまさに適うものであり、今後も本事業を教育活動の根幹に据え、学校運営を推進していきたいと考えています。

また、本校は、この活動を通して学校の魅力化の向上を図ることはもちろんのこと、起業できる意欲と能力を持った生徒を育て、地域に仕事を創り出す人材を輩出しながら、人口流出や少子高齢化、産業の衰微といった地域の課題を解決し、地域全体の活性化を実現できることを目指しています。この所期の目標が達成できた時に、上天草と同じような課題を持つ地域に対して、本校の成果を「上天草モデル」として全国へ提示できるようになると思っています。目指す地点はまだまだ遠いですが、一つ一つの活動を生徒とともに教師も「楽しみ」ながら継続させて参ります。

最後になりましたが、今年度の本校の取組に対しまして、上天草市をはじめとする各所の関係の方々から、多大なる御支援・御協力・御指導をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、本書をご覧いただいた皆様から多くの御助言等をいただけることを期待しまして、巻頭の御挨拶といたします。

令和３年３月

熊本県立上天草高等学校
校長　　田中　篤

もくじ

巻頭言

もくじ

第１章　研究開発完了報告書・目標設定シート …… 1

第２章　研究開発の詳細 …… 15

１　学校設定科目 …… 15

（１）上天草プロジェクトⅠ …… 15

（２）上天草プロジェクトⅡ …… 19

（３）地域起業研究 …… 24

２　地域と協働した課題解決活動 …… 28

３　「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト …… 30

４　生徒研究成果の発表 …… 33

５　エキスパート生徒派遣 …… 35

第３章　資料集 …… 37

１　令和元年度入学生教育課程表 …… 37

２　各委員会議事録 …… 40

３　探究活動自己評価（ルーブリック） …… 57

４　成果物 …… 58

５　関連記事 …… 64

本事業「Ｋ＃Ａｍａｘ」の概念図 …… 71

Ｋ＃Ａｍａｘについて …… 72

第Ⅰ章　研究完了報告書・目標設定シート

令和３年３月

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目１８番１号
管理機関名　熊本県教育委員会
代表者名　　教育長　古閑　陽一

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和２年４月１０日（契約締結日）～　令和３年３月３１日

２　指定校名・類型
学校名　　熊本県立上天草高等学校
学校長名　田中　篤
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

４　研究開発概要
Society5.0 に主体的に対応できる地域人材を育成するため、すべての教科で学びの根幹となる「聞く」「話す」「表現する」力を高めるプロジェクトを行う。これらの力を根底に据え、地域や大学等と協働した学校設定科目である「上天草プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を軸としたカリキュラム開発を行い、「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成を行う。その際、上天草市内小中高が連携して推進している起業家教育を大きな柱とし、持続的な地域の発展を念頭に、様々な資源を活かし結びつけ、起業する人材が核となり、地域全体の意識の変革をもたらし、就業構造の変化につなげることをも目標としている。課外活動についても地域との協働を強化し、「地域の知の最高学府」である上天草高校の魅力化を推進し、地域への課題意識や貢献意識を持ち、解決に向けて主体的に思考・行動する人材を育成していく。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　　開設している　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用している　・　活用していない

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
荒木　朋洋	東海大学　九州キャンパス長	学識経験者
田中　尚人	熊本大学　熊本創生推進機構　准教授	学識経験者
堀江　隆臣	上天草市　市長	関係行政機関の首長
足立　國功	熊本ソフトウェア株式会社　代表取締役社長 熊本県産業教育振興会　会長	産業教育に 専門的知識を有する
松冨　浩之	熊本日日新聞社　上天草支局長	地元紙の支局長

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
熊本県教育委員会県立学校教育局高校教育課	岩本　修一
上天草高等学校	田中　篤
上天草市企画政策部	花房　博
上天草市観光おもてなし課	前方　正広
上天草市教育委員会学務課	赤瀬　耕作
上天草市教育委員	山下　勝一
上天草市商工会総務課	志村　俊和
上天草市社会福祉協議会地域福祉係	須中　一久
上天草市小中学校長会	福嶋　光浩
ＪＡあまくさ	水野　龍幸、林田　敏男
天草漁業協同組合上天草総合支所	北岡　秀敏
上天草市区長連合会	福田　津奈男
天草ケーブルネットワーク　メディア事業部	芥川　琢哉
上天草市危機管理情報課	松尾　伸之
天草四郎観光協会	杉本　健一
東海大学教学部九州教学課	小田　心一
カリキュラム開発等専門家 地域協働学習実施支援員	元田　有祈

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	元田　有祈	元田農業(株)・代表取締役	非常勤
地域協働学習支援員	元田　有祈	元田農業(株)・代表取締役	非常勤

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				開催							開催	
コンソーシアム委員会				開催			開催					開催
カリキュラム開発等専門家	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用
地域協働学習支援員	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱

（2）実績の説明

①運営指導委員会について

研究内容の指導、経過の確認、結果の評価及びコンソーシアムに対して第三者的な視点から指導助言をいただいている。今年度は、第１回会合において「令和元年度事業報告」、「令和２年度事業計画に対する指導助言」、「３年間の事業の方向性に関する協議及び提言」をいただき、研究開発の指針を示していただいた。第２回会合（研究成果発表会）では、「研究成果の発表に関する指導助言」につづき、地域協働活動を根付かせ、発展させるためのパネルディスカッションを本校職員向けに開催し、地域との協働に必要な大人のつながりについてご意見を賜った。

②コンソーシアムについて

コンソーシアムについては、本事業の意思決定機関であり、育てたい人材像を共有し、協働して人材育成に携わる機関と位置付けている。その役割として、育てたい人材像の策定・共有、学校設定科目を中心とした教科科目の指導計画策定への参画、事業の進捗状況の管理・検証などを行っている。また、コンソーシアム委員のうち９名が、本校の総合型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の委員との兼任で、事業指定終了後にコンソーシアムの機能を学校運営協議会で担うことができるよう、自走に向けた準備を行っている。

③カリキュラム開発等専門家および地域協働学習実施支援員について

カリキュラム開発等専門家は、非常勤として週４日程度勤務している。カリキュラムの開発・進捗状況の管理、授業における課題発見解決型学習等の地域連携の企画・実施支援を行っている。また、同一人物を地域協働学習支援員に指名し、学生時代に文部科学省で働いていた経験や、地域おこし協力隊として活動してきた経験を活かして、学校と地域などの外部とをつなげ、地域の資源や地域外から地域に関わっている方たちを活用し、地域連携の企画・運営・実施支援を行っている。学校と地域を結ぶコーディネートだけでなく、生徒の探究活動のアドバイスや精神的なフォローまでマルチに活躍いただいている。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
地域理解講座 【上天ＰⅠ】				１回		３回						
プロジェクト 学習 【上天ＰⅠ】		２回	４回	３回		１回	３回	２回	３回	３回	２回	
プロジェクト 学習 【上天ＰⅡ】			３回	３回	１回	４回	２回	３回	３回	３回	２回	２回
フィールドワーク 地域人材との活動 【上天ＰⅠ】 【上天ＰⅡ】			１班	６班	４班	15班	８班	４班	１班	１班		
マーケティング 商品開発　講座 【地起研】			４回	３回	１回							
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 動画ｺﾝﾃﾝﾂ 作成講座 【地起研】						４回	２回	２回	３回			
「聞く」「話す」 「表現する」 プロジェクト 公開授業週間				１回								
「聞く」「話す」 「表現する」 プロジェクト ルーブリック評価			１回						１回			
エキスパート 生徒派遣							３回	２回				
生徒成果発表 （全生徒対象）								１回	１回		１回	
研究成果発表											１回	

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

（ア）<u>「上天草プロジェクト」をはじめとする探究活動の充実</u>

本校の探究活動は、主に学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」（１学年）と「上天草プロジェクトⅡ」（２学年）で行われている。

昨年度の反省として、上天草プロジェクトⅠで地域理解講座をはじめとする“インプット”と研究成果の発表という形の“アウトプット”に追われてしまい、じっくりと研究に取り組む時間が確保できなかったことが挙げられる。

今年度は、上天草プロジェクトⅠにおいて、内容の精選を行い、プロジェクト学習として班ごとに研究に取り組む時間の確保に取り組んだ。

また、上天草プロジェクトⅡにおいては、ほとんどの活動を班ごとで行えるよう、全体での“インプット”作業を省き、各班で設定した課題に応じた個別の活動を重

視するようにした。同時に、学校設定科目「地域起業研究」（２学年：普通科）において、従来のカリキュラムでは身につけることができなかった、マーケティングの知識や情報機器の活用能力を身につけることができるよう、限定的な課題を解決する実習に時間を割いている。

（イ）新学習指導要領における地域人材育成を目指した授業改善への取組

昨年度、目指す人材像と具体的能力を職員間で共有し、各教科にできることを集約した年間計画（教科毎）及びルーブリック評価表を作成した。

今年度は、このルーブリック評価表を『目指す人材像育成のための共通言語』と位置付け、全教科で授業改善の観点のひとつとして活用した。

ルーブリック評価は、年２回（６月・１２月）、生徒の自己評価で実施し、授業改善の指標として活用されている。

（ウ）大学や研究機関との連携

今年度は新型コロナウイルス感染症対策としても、大人数で活動することより少人数でニーズに合わせた探究活動とインプットを重視し、全体での講演会や講座ではなく、グループ毎に大学や企業等と繋がりを持ち、インタビューやレクチャーに臨む機会の増加を図った。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

１年全学科において、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」（１単位）、２年全学科において、学校設定科目「上天草プロジェクトⅡ」（１単位）をそれぞれ総合的な探究の時間の代替として実施している。また、２年普通科においては、学校設定科目「地域起業研究」（１単位）を実施している。

③各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組について

１年生「社会と情報」における「個人の権利」「著作権」「情報発信」とポスター作成の時期を合わせるなど、「上天草プロジェクトⅠ」と他の科目と連動している。

２年生普通科普通クラスにおいては、商業科目「ビジネス基礎」を履修し、「上天草プロジェクトⅡ」と連動した起業家教育に取り組んでいる。また、公民科職員と商業科職員の指導の下、日本証券業協会の「株式学習ゲーム」に取り組み、現実の経済・社会の動きに目を向けることができるようにしている。

２年生普通科全員が履修する、学校設定科目「地域起業研究」では、理科・英語・家庭・商業の職員を担当者として配置し、商品開発やメディアコンテンツの作成を通じて、課題解決能力の育成を行っている。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

（ア）エキスパート生徒派遣　～中高の連携による起業家教育～

上天草市では「小中高一貫の起業家教育」に取り組んでおり、市内全ての中学校でビジネスプランの作成を総合的な探究の時間で行っている。

エキスパート生徒派遣事業は、各中学校に本校生徒を派遣し、高校生が日頃の成果を元に中学生にアドバイスをするなど、共同でビジネスプランを研究できるよう

設定されている。

（イ）学校・地域間の双方向コーディネート　～コンソーシアムの機能強化～

本事業の取組において、生徒の課題発見・課題解決に地域の力を借りる場面が創り出された。同時に、地域から高校生に力を貸して欲しいと依頼されるケースも急増している。以前は、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会に依頼が持ち込まれても、「有志が、放課後や休日に」対応する必要があり、うまくマッチングできないケースも存在していた。本事業で「全員が、授業の一環として」対応できることで、依頼を受けやすくなっている。

このような状況であることから、学校と地域双方のニーズを満たすために、コーディネーター並びにコンソーシアムのコーディネート機能強化に取り組んだ。

⑤成果の普及方法・実績について

（ア）生徒の成果発表による普及

ⅰ．本校販売実習「上天草バザール」で中間発表として研究内容のポスター展示。

ⅱ．ＫＳＨ（熊本スーパーハイスクール）生徒研究発表会への参加。

ⅲ．生徒研究成果発表会の開催

（イ）ホームページを活用した普及

本校ホームページと連動した特設ページをリニューアルし、更新頻度をあげながら情報発信に努めた。「ホームページで活動を知った。」という各種メディアから取材を受けるなどの地域魅力化との相乗効果が見られた。

（ウ）「地域協働だより」の作成・配付

カリキュラム開発等専門家が、取組の普及を目的とした「地域協働だより」を作成し、関係各所及び上天草市内全戸に配布。

（３）研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家は、学校内（生徒、教職員、授業、部活動、学校行事等）と学校外（地域内外の教育資源、行政、大学、ＮＰＯ、メディア等）をつなぎ効果的な学習活動を創出する役割を担っている。地域協働学習実施支援員は、カリキュラム開発等専門家と同一の者を指名しており、学校のニーズを地域の資源（人材）と結びつけるだけでなく、地域のニーズを学校の資源（人材）と結びつける双方向のコーディネート機能を担っている。

さらに、市内各所との連携はもちろんのこと、市の地域おこし協力隊員との連携も深め、ネットワークを広げながら、より充実した事業を展開できた。特に上天草市義務教育諸学校配置のコーディネーターと連携することで、本校と市内中学校の探究活動が連動し、相乗効果を発揮している。

カリキュラム開発等専門家と高校で策定したカリキュラムや指導計画に対し、コンソーシアム内の様々な立場からの提言をいただき、事業に反映させ、高校で評価・検証し、コンソーシアムで協議するという役割分担を定める中でＰＤＣＡサイクルを確立し、よりよ

い事業の推進を目指している。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

研究開発を主として担当する職員２人とカリキュラム開発等専門家（地域協働学習実施支援員を兼任）を、管理職中心の「研究代表者会」、教科主任・学年主任で構成された「研究推進委員会」で手厚くサポートする体制が構築されている。学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」を実施する１学年に担当者を１名配置し、昨年の経験を活かしながら内容の精選を行った。また研究開発主任を２学年に配置し、今年度から新しく取り組む学校設定科目「上天草プロジェクトⅡ」と「地域起業研究」の実施を推し進めた。各学年の取組は、研究担当者任せになることがないよう、学年主任を中心とした学年団の協力体制を構築することができている。

③学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

研究の成果や課題を検証し、適切な評価を行う「研究評価検討委員会」を設置し、定期的に進捗状況の確認および計画の修正を行っている。

また、今年度新任の学校長および教頭が着任したが、小規模校であるという特性を活かし、管理職が活動に参加することで、各事業の進捗状況や計画について活発な意見交換が行われている。これにより、データとともに「実体験」を伴った研究開発の全体像を学校長が把握し、強いリーダーシップの下、研究開発を力強く前進・加速させることができている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

前述のとおり、コンソーシアム委員会では、育成する地域人材像を共有している。これをもとに、学校設定科目「地域イノベーション研究」の開発に着手、身につけるべき能力についてワークショップ形式で熟議し、まとめたものを研究推進委員会に提言している。また、学校設定科目のシラバスや「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの進捗状況に対しての助言だけでなく、講師の紹介や派遣を積極的に行っている。カリキュラム開発に限らず、上天草高校の教育活動全般において、コンソーシアムの果たす役割は非常に大きくなっているといえる。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（１）全校を挙げての授業改善

全校を挙げて授業改善を推進し、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力、の３つの力を重点的に身に付けさせるために次のような取組を行った。

①<u>探究学習の推進</u>

学校設定科目を中心に探究活動の充実を図った。昨年、「上天草プロジェクトⅠ」の班ごとに探究を進めるプロジェクト学習は１５回であったが、今年度は休校の影響で授業数が減少したにも関わらず２５回実施できる予定である。本年度から実施している「上天草プロジェクトⅡ」では２６回の実施を予定するなど量的にも増加していることから、探究に時間をかけることができている。

同時に、学校設定科目「地域起業研究」（２年生１単位）で商品開発の手法とマーケティングを学習したことで、アイデア重視になりがちなビジネスプランの作成も入手した情報を基に市場規模を推計したり、CVP 分析を基に販売目標を設定したりするなど、情報を読み解き、理論的な裏付けをすることができるようになるなど、質的な向上も見られた。

②「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト

ルーブリック評価表を『目指す人材像育成のための共通言語』と位置付け、全教科で授業改善の観点のひとつとして活用したことで、各教科の授業で積極的な取組がみられた。

年度当初は、新型コロナウイルス感染症対策として、生徒同士で話し合う場面や発表する機会の減少が危惧された。９月に実施された「高校魅力化評価システム」の調査結果でも、２・３年生で探究性に関わる学習活動を「よくする」「時々する」という肯定的な回答した生徒の割合は、２年生が－１２．９０ポイント、３年生が－１４．９４ポイントと大幅に減少している。しかし、これは、コロナ禍の影響で、去年と比べて探究性に関わる学習活動の機会が減ったと感じているためだと分析している。実際、学校全体での同質問に対する肯定的な回答の割合は、昨年比で３．７７ポイントの増加となっている。これは、昨年度の３年生に比べ今年度の１年生の肯定的な回答割合が大きいことが影響している。つまり、コロナ禍の影響はあるが、学校全体として探究性に関わる学習活動の機会は確保できているといえる。

③大学や研究機関との連携～ＩＣＴの活用～

今年度は、地元企業だけでなく、熊本大学、東海大学、九州電力、熊本日日新聞社、(株)ミハラシ、(一社)みらいず設計Ｌａｂ．、(株)ＯＮ－ｄｏ、(株)環境デザイン機構など、多くの大学や企業と繋がることができた。

また、コロナ対策でＩＣＴを使ったリモートでのコミュニケーションの実績を積むことができ、校内で講演会を分散開催するなど新たな取組に挑戦し、今後の新しい授業形態に対応するためのノウハウを得られた。

（２）地域と連携した人材育成

①小中高一貫の起業家教育　～エキスパート生徒派遣～

今年度は上天草市内全ての中学校に生徒を派遣し、中学生のビジネスプランに対して助言することができ、高校と中学双方で相乗効果があった。

また、各中学校のビジネスプランの発表会を、本校の販売実習「上天草バザール」の会場で実施したことで、上天草全体の地域協働活動及び起業家教育に弾みをつけることができた。

②学校・地域間の双方向の課題解決

フィールドワークやインタビューなど、生徒と地域とが直に触れあう機会は、昨年度延べ５班だったが、今年度は延べ４０班と増加した。なお、この数は１時間単位で計画されたものであり、簡易的なアドバイスや間接的な支援は含まれていない。

内容としては、商品開発やイベントの企画といった、生徒主体の地域課題解決に対する支援が活発になると同時に、地域主体の地域課題解決に高校生に参画してほしいとの依頼も増加した。天草四郎生誕４００年記念事業や宮津地区将来構想策定、新型コロナウイル

ス感染症対策事業（ステッカーデザイン）など、単にボランティアとしてお手伝いをする内容ではなく、生徒が主体的に取組に参加し、意見を述べたり課題解決のノウハウを吸収する機会を頂いている。このことで、「地域の一員として地域の課題解決に参画している。」との意識が向上し、生徒主体の課題解決の質的な向上につながることを期待している。

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）学校・地域そして世代間のつながりの多チャンネル化

今年度までの取組では学校と地域のつながりについて、生徒と地域のつながりを中心に考えてきた。その大きな役割を果たしているのがコンソーシアムであり地域協働学習実施支援員である。しかし、地域課題を解決する探究的な学びを持続可能な取組にするためには、この単一のチャンネルだけでは不十分であると考えられる。

そこで次年度の取組が多チャンネル化である。これには「大人のつながり」と「学年間のつながり」をつくる取組を行う予定である。

「大人のつながり」は、地域の人材と本校職員が直につながることができるチャンネル（関係性）をつくりたいと考えている。職員が地域とつながることで、課題解決のために必要な人材とつながることができるようになり、生徒にとっても地域とつながるハードルが低く感じられ、結果的に生徒と地域の協働が活発に行われるようになると考えている。

「学年間のつながり」は、生徒が探究活動で得たノウハウや研究成果を継承できるよう、学年の垣根を越えて活動する機会の増加を考えている。いずれにしても、特定の人物（生徒・職員・地域人材）に頼ることなく関係性を継続・継承できる仕組み作りを目指す。

（２）学校・地域間の双方向コーディネート　～コンソーシアムの機能強化～

つながりの多チャンネル化を進め、個別のつながりを構築するとは言え、その中心的な存在として情報の交通整理をするコンソーシアム（のちに学校運営協議会へ引き継ぎ）の機能を強化したい。具体的には、生徒が取り組んでいる課題を定期的に共有するメールマガジンの配信、上天草市義務教育諸学校配置のコーディネーターとの連携といった、自走できる仕組みの構築を図る。

（３）新しい生活様式に対応したコミュニケーション

当初予定していた「地域理解講座」「地元住民との語り合い」「生徒研究成果発表会」「都市部でのマーケティング調査」等は、人が多く集まる場で開催することを前提に企画されている。次年度は、これらの取組で得られたであろう効果を維持したまま、新生活様式に即した形に置き換えることに挑戦する。今年度積み重ねた、講演会の分散開催やリモートでのレクチャーの実施といった経験を活かし、ICT 技術を利用した講演会やインタビューを増やしていく。そのなかで、リモートだけでは感じることが難しいことを見極め、直接・現場での活動を精選していく。

【別紙様式５】

ふりがな	くまもとけんりつかみあまくさこうとうがっこう	指定期間	
学校名	熊本県立上天草高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（　年度）
a	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 地域に魅力を感じ、愛着を持つ生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生のアンケート結果による）						単位：％
	本事業対象生徒：			96.8%	91.6%		90%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		82%	86.9%	86.6%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の魅力を感じ、愛着を持つ生徒数を増加させる。						
b	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 本校の取組によって、地域の新たな魅力を再発見した生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生のアンケート結果による）						単位：％
	本事業対象生徒：			93.5%	88.1%		85%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		75%	85.4%	83.6%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の新たな魅力を再発見した生徒数を増加させる。						
c	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 地域の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生のアンケート結果による）						単位：％
	本事業対象生徒：			93.5%	90.8%		80%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		66%	66.2%	67.2%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒数を増加させる。						
d	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生のアンケート結果による）						単位：％
	本事業対象生徒：			87.1%	76.5%		75%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		51%	59.7%	62.7%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、将来、上天草のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合を増加させる。						
e	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生の自己評価による。今後、客観的な評価システムを検討する。）						単位：％
	本事業対象生徒：			85.5%	88.2%		90%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		86%	88.5%	91.0%		
	目標設定の考え方：「聞く」プロジェクトに取り組むことで、他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合を増加させる。						
f	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生の自己評価による。今後、客観的な評価システムを検討する。）						単位：％
	本事業対象生徒：			69.4%	67.2%		70%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		44%	48.5%	53.7%		
	目標設定の考え方：「話す」「表現する」プロジェクトに取り組むことで、自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合を増加させる。						
g	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 高等学校卒業後、地元で就職する生徒の割合（地元就職に関する指標）						単位：％
	本事業対象生徒：						65%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：	36%	42%	41.9%	35.3%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、高等学校卒業後、上天草で就職する生徒の割合を増加させる。						

h	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 高等学校卒業後、地元で就業したいと考えている生徒の割合（就職希望者に関する指標）						単位：％
	本事業対象生徒：			64.9%	60.0%		60%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：	20%	39%	51.5%	46.3%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、将来、上天草で就業したいと考えている生徒の割合を増加させる。						
i	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合（進学希望者に関する指標）						単位：％
	本事業対象生徒：			37.9%	32.7%		60%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		23%	33.8%	34.1%		
	目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合を増加させる。						
j	（その他本構想における取組の達成目標） 上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）						単位：％ 事業参画地域住民のうち
	本事業対象地域住民：			86.3%	86.6%		85%(2021年度)
	本事業対象地域住民以外：		76%				
	目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合を増加させる。						
k	（その他本構想における取組の達成目標） 上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）						単位：％ 事業参画地域住民のうち
	本事業対象地域住民：			87.5%	89.1%		80%(2021年度)
	本事業対象地域住民以外：		73%				
	目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合を増加させる。						
l	（その他本構想における取組の達成目標） 本事業（現在の本校の取組）が地域の変容をもたらすと考える地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）						単位：％ 事業参画地域住民のうち
	本事業対象地域住民：			83.3%	85.7%		80%(2021年度)
	本事業対象地域住民以外：		73%				
	目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、本事業が上天草の変容をもたらすと考える地域住民の割合を増加させる。						

２．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（年度）
a	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 運営指導委員会の回数						単位：回／年
				2回	2回		2回(2021年度)
	目標設定の考え方：年２回の運営指導委員会を実施する。						
b	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 研究代表者会の回数						単位：回／学期
				2回	2回		2回(2021年度)
	目標設定の考え方：学期１回の研究代表者会を実施する。						
c	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 研究推進委員会の回数						単位：回／月
				0.66回	1回		1回(2021年度)
	目標設定の考え方：月１回の研究推進委員会を実施する。						
d	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の回数						単位：回／学期
			１回	1回	2回		1回(2021年度)
	目標設定の考え方：学期１回の学校運営協議会を実施する。						
e	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） テーマに沿った研究授業の回数						単位：％／授業回数
				0.3%	0.07%		5%(2021年度)
	目標設定の考え方：各研究テーマに沿った研究授業を授業回数の５％実施する。						
f	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 上天草市に関する地域理解講座の回数						単位：回／年
				6回	4回		5回(2021年度)
	目標設定の考え方：上天草市に関する地域理解講座を年５回実施する。						
g	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 高大接続研究の回数						単位：回／年
				0回	0回		1回(2021年度)
	目標設定の考え方：高大接続研究を年１回実施する。						
h	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） プロジェクト学習の回数						単位：回／各学年
				15回	51回		10回(2021年度)
	目標設定の考え方：プロジェクト学習を各学年１０回実施する。						
i	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 研究成果発表会の回数						単位：回／年
				1回	1回		1回(2021年度)
	目標設定の考え方：研究成果発表会を年１回実施する。						
j	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 班毎の調査研究の本数						単位：本／年
				1本	1本		1本(2021年度)
	目標設定の考え方：班毎の調査研究を年１本発表する。						
k	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導回数（直接指導及び遠隔設備を用いた指導）						単位：回／年
				5回	16回		10回(2021年度)
	目標設定の考え方：班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導を年１０回実施する。						

l	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 本校生徒を「エキスパート生徒」として授業に参加させ、起業家教育における課題研究についてアドバイスする延べ人数					単位：人／年
			31人	40人		20人(2021年度)
	目標設定の考え方：５校×生徒２名×学期１回×２回（２、３学期）					
m	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）本数					単位：本／年
		０本	０本	17本	（グランプリの中止）	5本(2021年度)
	目標設定の考え方：高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）する本数。					
n	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） ＩＣＴを利用した隔地者間のコミュニケーション（ＷＥＢミーティング、ＷＥＢディスカッション）の回数					単位：回／学期
			０回	0回	1回	1回(2021年度)
	目標設定の考え方：ＩＣＴを利用した隔地者間のコミュニケーション（ＷＥＢミーティング、ＷＥＢディスカッション）を学期１回実施する。					
o	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習の回数					単位：回／年
		０回	０回	1回	0回	1回(2021年度)
	目標設定の考え方：国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習を年１回実施する。					
p	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 全国サミットへの参加回数					単位：回／年
				1回	2回(Web)	1回(2021年度)
	目標設定の考え方：全国サミットに年１回参加する。					
q	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 本取組専用HP開設および更新回数					単位：回／週
				0.6回	1.29回	1回(2021年度)
	目標設定の考え方：研究開発へ取り組む様子を確実に記録に残す。					
r	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 研究開発実施報告書の作成回数					単位：回／年
				1回	1回	1回(2021年度)
	目標設定の考え方：研究開発実施報告書を年１回作成する。					
s	（その他本構想における取組の具体的指標） 上天草市報の広報特派員の取組による紙面掲載回数					単位：回／年
		５回	５回	5回	5回	5回(2021年度)
	目標設定の考え方：上天草市報の広報特派員として、隔月毎に紙面を作成する。					
t	（その他本構想における取組の具体的指標） 高校生による天草ＣＡＴＶ（天草地域のケーブルテレビ局）での番組制作本数					単位：本／年
		０本	０本	0本	0本	1本(2021年度)
	目標設定の考え方：上天草の魅力を発信する番組を制作する。					
u	（その他本構想における取組の具体的指標） 観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売回数					単位：回／年
			１回	0回	1回	2回(2021年度)
	目標設定の考え方：観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売を年２回実施する。					
v	（その他本構想における取組の具体的指標） 本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える保護者の割合（2018年度は一部の保護者による）					単位：％
			81%	86.5%	88.1%	85%(2021年度)
	目標設定の考え方：本事業が魅力的だと考える保護者の割合を増加させる。					
w	（その他本構想における取組の具体的指標） 本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える生徒の割合（2018年度は、高校１・２年生のアンケート結果による）					単位：％
			81%	91.4%	93.4%	85%(2021年度)
	目標設定の考え方：本事業が魅力的だと考える生徒の割合を増加させる。					

３．地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（　年度）
a	（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） コンソーシアムの活動回数					単位：回／年
			5回	4回		6回(2021年度)
	目標設定の考え方：コンソーシアムを年６回実施する。					
b	（その他本構想における取組の具体的指標） 地域理解講義の講師数					単位：人
			12人	5人		10人(2021年度)
	目標設定の考え方：地域各分野の代表２名×約５回					
c	（その他本構想における取組の具体的指標） プロジェクト学習の語り合いへの参加数					単位：人
			36人	０人		80人(2021年度)
	目標設定の考え方：８班（想定）×約５名（住民代表、産業界、行政担当部署等）×最低２回					
d	（その他本構想における取組の具体的指標） 地域住民等の研究成果発表会への参加数					単位：人
			30人	0人		100人(2021年度)
	目標設定の考え方：地域住民等の研究成果発表会への参加を増加させる。					
e	（その他本構想における取組の具体的指標） 上天草バザールにおける協力者、来場者数					単位：人
	１，８６０人	１，９５０人	1,856人	1,092人		2,100人(2021年度)
	目標設定の考え方：上天草バザールにおける協力者、来場者数を増加させる。					
f	（その他本構想における取組の具体的指標） 福祉科の実習等に携わる事業所等の数(2020年度はコロナウイルスの影響で実習中止となった事業所も含む数値)					単位：事業所
	１７事業所	２０事業所	16事業所	16事業所		22事業所(2021年度)
	目標設定の考え方：福祉科の実習等に携わる事業所等の数を増加させる。					

＜調査の概要について＞

１．生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）		216	205	200	
本事業対象生徒数			68	127	
本事業対象外生徒数			137	73	

第２章　研究開発の詳細

１　学校設定科目

（１）上天草プロジェクトⅠ（１学年全学科１単位）

①目的等

地域の現状を理解し、その中から課題を発見し、分析する力、克服して解決に導く力を養う。また、発表を通じてプレゼンテーション能力を養う。

地域の「困り事」や資源を活かすビジネスプランの立案を通じて、地域課題解決に向けた探究活動を行う。年度当初の１学期を中心に、地域を幅広く理解するために、地域行政や産業界等による連続講義を実施する。１学期後半から３学期にかけて、地域の諸問題を題材としたプロジェクト学習としてビジネスプランの作成に取り組む。自ら設定した課題の解決を、持続可能な収支計画を伴ったビジネスプランにまとめる活動を通して、課題解決に向けた探究の手法の習得を図る。

②内容

地域の「困り事」や資源を活かすビジネスプランの立案を通じて、地域課題解決に向けた探究活動を行う。

具体的には、政策金融公庫による出前講座で、ビジネスプランの発想法について学び、フィールドワークや地域住民との「語り合い」、大学教授による指導助言、市役所職員による協働フィールドワークや指導助言等を計画していたが、コロナ禍の影響で実施できないことが多くなった。

生徒の研究成果は、ポスターセッションやスライドを使ったプレゼンテーションで発表する機会を全生徒対象に設けるとともに表現方法などの演習も行った。

【具体的内容】

期日	内容	内容詳細
４月 13 日	オリエンテーション１	雇われる就職から創り出す就職へ
５月 21 日	プロジェクト学習１	テーマ設定・班分け
５月 28 日	プロジェクト学習２	ＳＤＧｓ
６月４日	プロジェクト学習３	探究の基礎
６月 11 日	プロジェクト学習４	ビジネスプランの基礎
６月 18 日	プロジェクト学習５	テーマ設定
６月 25 日	プロジェクト学習６	研究、フィールドワーク
７月２日	プロジェクト学習７	研究、フィールドワーク
７月９日	地域理解講座１	まち・ひと・しごと創生総合戦略
７月 16 日	プロジェクト学習８	研究、フィールドワーク

7月30日	プロジェクト学習9	研究、フィールドワーク
8月27日	プロジェクト学習10	収支計算の演習およびプランの作り方
9月3日	地域理解講座2	６次産業とブランド化
9月10日	地域理解講座3	観光
9月17日	地域理解講座4	福祉
9月24日	プロジェクト学習11	研究、フィールドワーク
10月1日	プロジェクト学習12	研究、フィールドワーク
10月22日	プロジェクト学習13	中間発表準備
10月29日	プロジェクト学習14	中間発表準備
11月5日	プロジェクト学習15	中間発表準備
11月14日	中間報告展示	上天草バザールにて展示
11月19日	プロジェクト学習16	研究、フィールドワーク
12月3日	プロジェクト学習17	研究、フィールドワーク
12月10日	プロジェクト学習18	研究、フィールドワーク
12月17日	プロジェクト学習19	研究、フィールドワーク
12月23日	成果発表	学年予選
1月14日	プロジェクト学習20	成果発表会準備
1月21日	プロジェクト学習21	成果発表会準備
1月28日	プロジェクト学習22	成果発表会準備
2月3日	研究成果発表会	生徒発表＋事業成果の発表
2月4日	プロジェクト学習23	成果発表会の振り返り①
2月25日	プロジェクト学習24	成果発表会の振り返り②
3月4日	先進出前講座1	プレゼンテーション研修
3月18日	年間反省	次年度へ向けて

（ア）地域理解講座

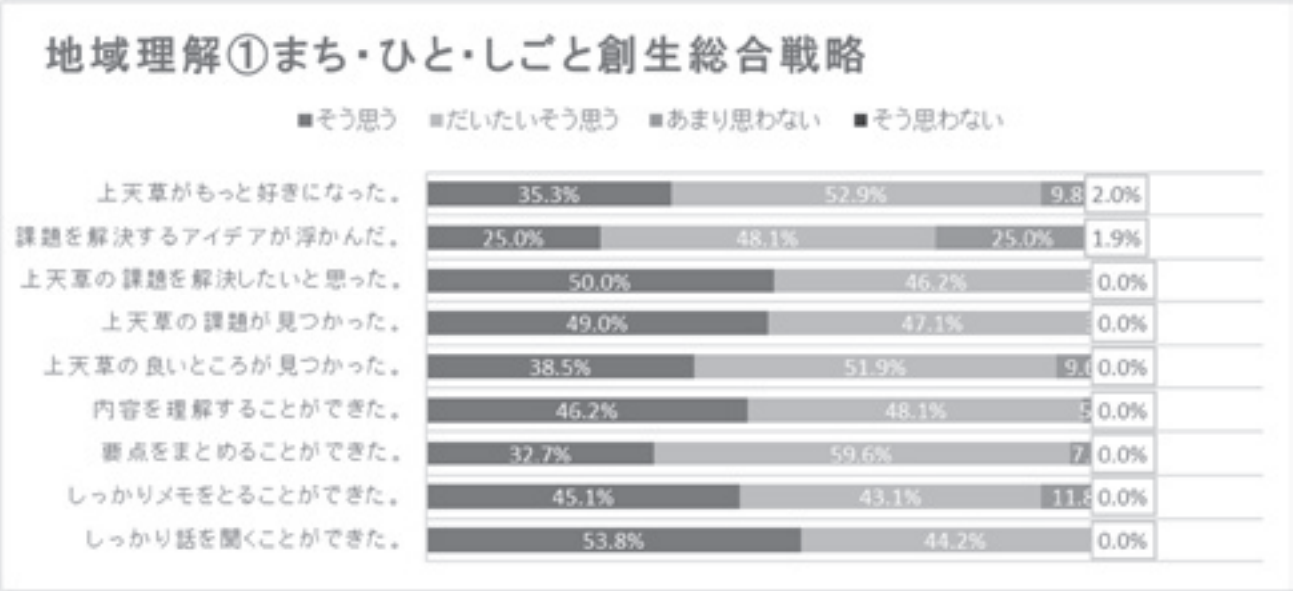
地域に密着した課題について、市役所等から講師を招聘し、講義形式中心で今年度は４回実施した。地域を知り愛着を持ち、地域社会を知ることを目的とする。聞いて、メモを取り、要点をまとめる能力の向上も図る。添付されているグラフは、各講座終了後に実施した自己評価の集計。

（ｉ）「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

期　日：令和２年７月９日　１４：３５～１５：２５

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：上天草市役所　企画政策課　地方創生係長　鬼塚　正二　氏

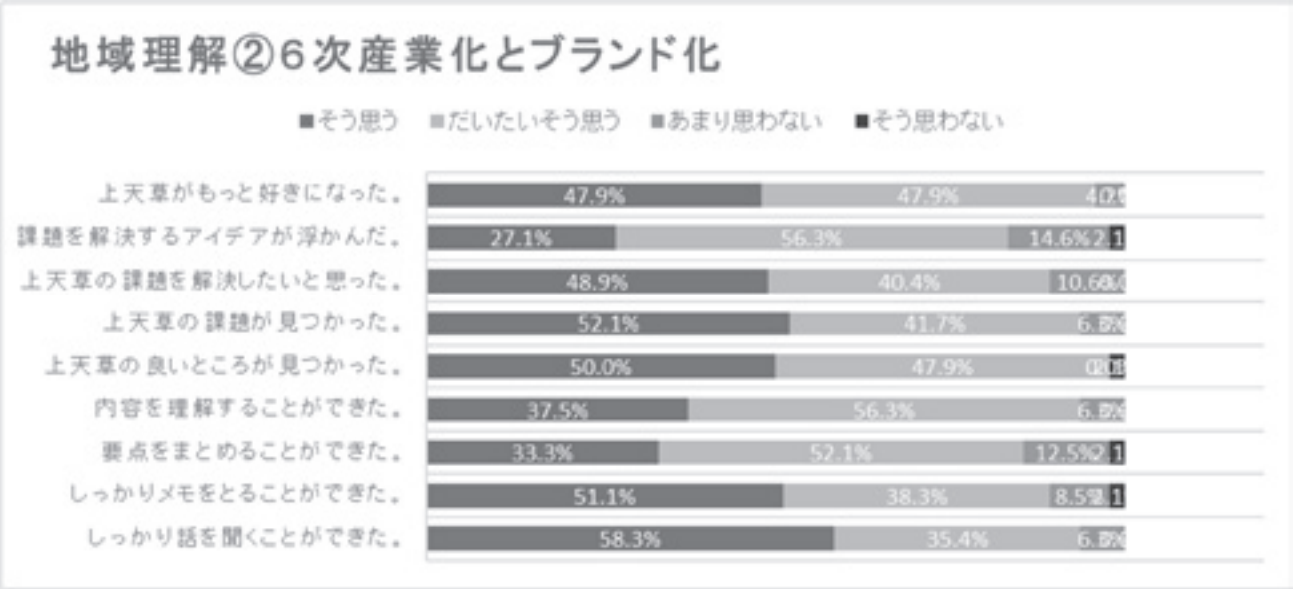


（ⅱ）「上天草の６次産業化とブランド化について」

期　日：令和２年９月３日　１４：３５～１５：２５

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：上天草市役所　産業政策課　産業創出係　主幹　山川　葉子　氏

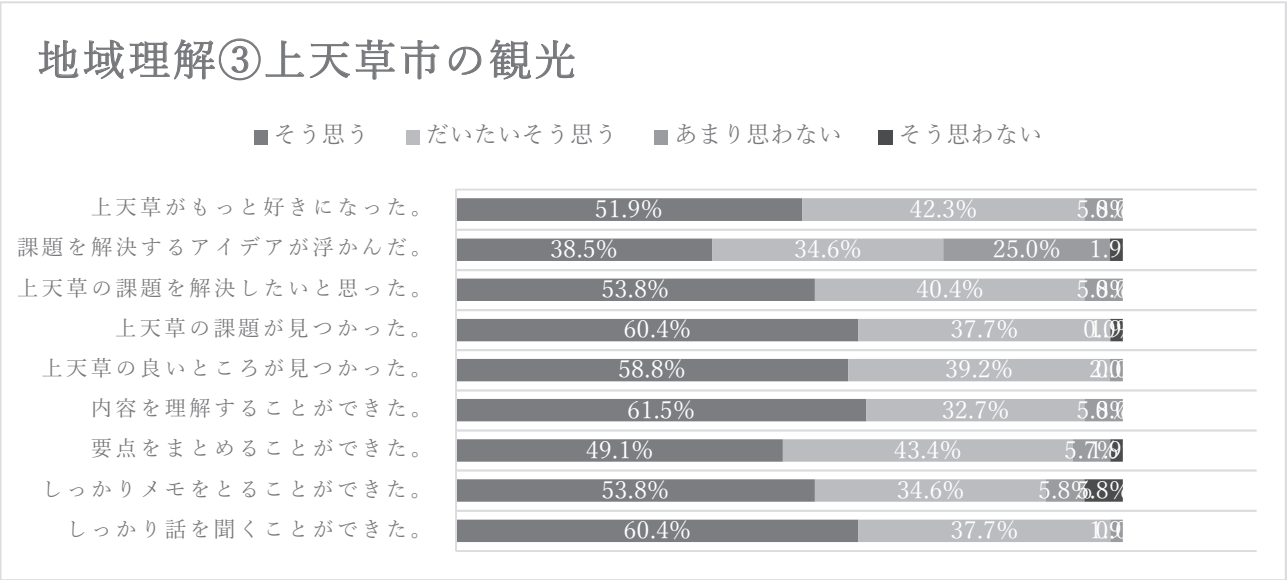


（ⅲ）「上天草市の観光について」

期　日：令和２年９月１０日　１４：３５～１５：２５

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：上天草市役所　観光おもてなし課　観光振興係長　寺中寛人　氏



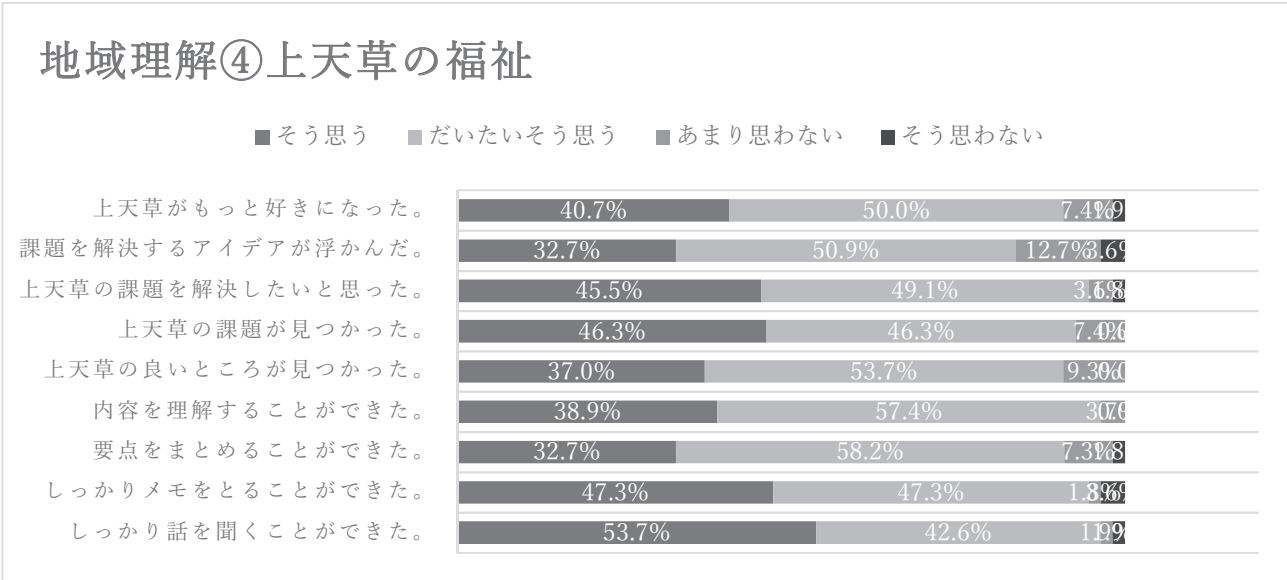
（ⅳ）「上天草市の観光について」

期　日：令和２年９月１７日　１４：３５～１５：２５

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：社会福祉法人姫戸ひかり会　高齢者福祉施設ひかりの園

施設長　深谷　誠了　氏



（イ）先進出前講座

大学や研究機関等から外部講師を招聘し、講義形式を中心に実施した。地域課題を解決するために必要な知識・技能を習得することを目的とする。また、聞いて、メモを取り、要点をまとめる能力の向上も目指す。今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、実施回数は１回のみとなった。

（ｉ）プレゼンテーション講演会「with コロナを生き抜くマストなスキルとは」

期　日：令和３年３月４日　１３：３５～１５：２５

場　所：上天草高校視聴覚室

講　師：ＴＥＤｘＫＵＭＡＭＯＴＯ　Ｆｏｕｎｄｅｒ　松岡　祥仁　氏

（ウ）プロジェクト学習

地域課題解決のためのビジネスプランを考案する探究活動を行った。９月に日本政策金融公庫主催の第８回高校生ビジネスプラングランプリに応募する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止となったため、今年度は応募できなかった。そのため、来年度の応募に向けた取組を進め、ビジネスプランの考案と修正を繰り返すことで、地域と協働した探究的な学びを実践することが目的である。特に１年次は「チャレンジしてみる！」を合言葉に、ＰＤＣＡサイクルで調査研究の手法を身につけた。

（エ）フィールドワーク

プロジェクト学習が単なる「調べ学習」で終わらぬよう現場での活動を行うことが目的である。同時にアポイントメントの取り方や調査研究の手法の習得を図る。生徒の要望に合わせ、交通手段も確保できるようになっている。今年度の１年生上天草プロジェクトⅠでは、地域理解講座等で時間的な余裕がなく、また新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、フィールドワークを活発に行うことはできなかった。

期日	協力	内容	場所	班数	人数
9/24	市総務課（広報）	レクチャー（広報について）	学校	1	4
12/20	ミューイ天文台	広報誌の取材	ミューイ天文台	1	4
1/27	市企画政策課	上天草ﾌｨﾙﾑｺﾐｯｼｮﾝ準備会	市役所	1	4
2/2	おやつ家菓音	広報誌の取材	おやつ家菓音	1	4

（２）上天草プロジェクトⅡ（２学年全学科１単位）

①目的等

同じ課題意識を持った少人数で班を編成し、課題研究を行う。共通の課題解決に向け協業力を高めながら解決に向けてビジネスプラン作成等、創意工夫することで、課題解決能力の育成を図る。

上天草プロジェクトⅠの成果をもとに、生徒が主体的に地域課題解決に向けた仮説の設定、解決策の具体策の実現可能性まで検討することができるような探究活動を実現した。生徒それぞれの研究課題に対しては、コンソーシアムの構成機関が主体的に関わり、フィールドワーク等を実施した。

②内容

1年次の上天草プロジェクトⅠで身につけた、地域の現状を理解し、その中から課題を発見し、分析する力、克服して解決に導く力とプレゼンテーション能力の基礎を発展させるため、班別のプロジェクト学習に取り組む。必要な知識・技能・人材を得るための方法を指導者・コーディネーターと共に考え、班別で必要な活動を企画・実施した。

【具体的内容】

期日	内容
6月2日	プロジェクト学習1
6月9日	プロジェクト学習2
6月16日	プロジェクト学習3
6月23日	プロジェクト学習4
7月7日	プロジェクト学習5
7月14日	プロジェクト学習6
7月28日	プロジェクト学習7
8月25日	プロジェクト学習8
9月1日	プロジェクト学習9
9月8日	プロジェクト学習10
9月15日	プロジェクト学習11
9月29日	プロジェクト学習12
10月20日	プロジェクト学習13
10月27日	プロジェクト学習14
11月10日	プロジェクト学習15

期日	内容
11月14日	中間報告展示
11月17日	プロジェクト学習16
12月1日	プロジェクト学習17
12月8日	プロジェクト学習18
12月15日	プロジェクト学習19
1月12日	プロジェクト学習20
1月19日	プロジェクト学習21
12月22日	学年別成果発表会
1月26日	プロジェクト学習22
2月2日	プロジェクト学習23
2月3日	研究成果発表会
2月9日	プロジェクト学習24
2月16日	プロジェクト学習25
3月9日	プロジェクト学習26
3月16日	プロジェクト学習27

【地域人材との活動・フィールドワーク】

期日	協力	内容	場所	班数	人数
6/23		市場調査	ショッピングセンターキャモン	1	4
7/14	市開発推進課	宮津地区将来構想①	学校	2	8
7/16	市企画政策課	映画レクチャー	市役所	1	4
7/28	天草モリンガファーム	インタビュー	モリンガファーム	1	4
7/28	市開発推進課	宮津地区将来構想②	市役所	2	8
8/11	市開発推進課	宮津地区将来構想③	市役所	2	8
8/25	市開発推進課	宮津地区将来構想④	市役所	2	8
9/1	アローム	レクチャー	アローム	1	3

9/1	市農水課	レクチャー	市役所	1	4
9/1	しろう部	しろう本企画会議	学校	2	8
9/14	市コロナ対策課	ステッカー打合せ	学校	1	3
9/15	みずの果樹園	インタビュー	みずの果樹園	1	4
9/15	しろう部	しろう本企画会議	学校	2	8
9/24	市コロナ対策課	ステッカー打合せ	学校	1	3
9/24	市総務課	レクチャー	学校	2	6
9/28	天草フィルムコミッション	レクチャー	学校	1	4
9/28	市コロナ対策課	上天草市長との対談	市役所	1	3
9/29	しろう部	しろう本企画会議（ラフ画）	学校	2	8
10/9	しろう部	レクチャー（リモート）	学校	1	4
10/13	しろう部	しろう本取材	各所	2	8
10/19	しろう部	しろう本取材	各所	1	3
10/20	みずの果樹園	商品開発（試作）	学校	1	4
10/20	しろう部	インタビュー（リモート）	学校	1	4
10/27	しろう部	取材まとめ	学校	2	8
11/10	しろう部	しろう本取材	サンはらいっぱい	1	4
11/11	みずの果樹園	商品開発（製造）	みずの果樹園	1	4
11/17	しろう部	原稿チェック	学校	2	8
12/21	東海大学農学部	インタビュー（リモート）	学校	1	4

※実施計画提出分のみ掲載。電話でのインタビューや短時間の簡単なアドバイスは含まない。

③探究活動の生徒による自己評価　※評価項目の詳細は資料参照

（ア）Ｒ２年度「探究活動自己評価（ルーブリック評価）」の結果

項目 / 評価	課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
4	46.7%	36.7%	33.3%	31.7%
3	50.0%	55.0%	60.0%	53.3%
2	3.3%	8.3%	5.0%	15.0%
1	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%

※2021/2/9 実施。対象 2 学年全員(回答者数 60)

（イ）Ｒ１年度「探究活動自己評価（ルーブリック評価）」の結果

項目 / 評価	課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
4	39.3%	33.9%	32.1%	17.9%
3	48.2%	42.9%	39.3%	57.1%
2	10.7%	19.6%	25.0%	21.4%
1	1.8%	3.6%	3.6%	3.6%

※2020/2/20 実施。対象１学年全員(回答者数 56)

（ウ）Ｒ２年度－Ｒ１年度比較　　単位：人

	課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	合計値
上昇	18	18	23	23	33
下降	10	10	13	9	16
維持	28	28	20	24	7

※比較可能な 56 人のデータを比較

（エ）上天草ＰⅡを通じて成長したと思うこと（自由記入）

（ｉ）情報収集に関すること

・知らない事、興味のある事を自主的に調べるようになった。
・取材をするとき、聞いた話を掘り下げて聞けるようになった。
・情報収集する力がついた（企業に電話、市役所に訪問）
・集めた情報を見極められるようになった。　など

（ii）発表に関すること

・人前で発表する機会が増え、自信を持てるようになった。
・聞く人がわかりやすいよう、資料や話し方を考えるようになった。
・自分の意見などを資料にまとめることが上手になった。
・ポスターやスライドのレイアウト（デザイン）

（iii）探究に関すること

・様々な場面で疑問を持つようになった。
・自分たちで、何が必要か調べ・考え、行動できるようになった。
・疑問に思ったことを質問できるようになった。　など

（iv）専門知識に関すること

・ＣＶＰ分析ができるようになった。

・イノシシの生態について詳しくなりました。　など

（ｖ）その他の資質に関すること

・積極性、忍耐力が身についた。
・取材を通じて段取りの大切さに気づいた。
・コミュニケーション能力。
・たくさんアドバイスをもらい、違った考えを取り入れられるようになった。
・責任感が強くなりました。
・協調性。班員での協力的な行動ができた。
・販売する前提で、現実的な収支計画を考えられるようになった。
・コンピュータの使い方が少し分かるようになった。
・考える力がつきました。
・計算力がつきました。
・自分の意見を言えるようになった。
・地域についてよく理解できた。興味が湧いた。　など

④成果と課題

（ア）探究活動の充実

昨年度上天草プロジェクトⅠの反省として、「地域理解講座などのインプットとビジネスプラン・グランプリへの応募や成果発表といったアウトプットに追われてしまい、じっくりと考える時間をとれなかった。」というものがあった

２学年の上天草プロジェクトⅡでは、「考える時間」「班ごとに活動する時間」の確保のために、すべての時間を班別のプロジェクト学習に割き、必要なインプットも班ごとに行うようにした。このことは、新生活様式で３密を避けるという意味でも有効で、少人数で活動することの安心感という副産物をもたらした。

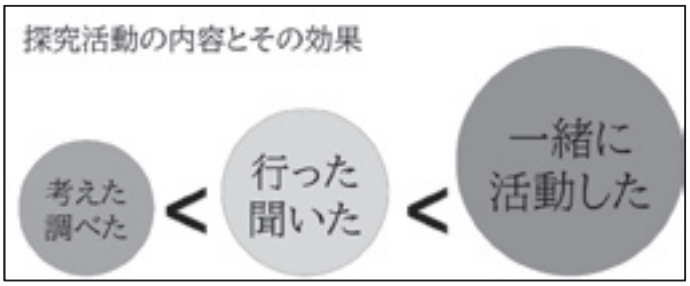
昨年上天草プロジェクトⅠで外部人材と活動したり、フィールドワークに出かけた班は４つだけであったが、今年度の上天草プロジェクトⅡでは４２班にになった。また、外部人材からより専門的で、生徒の取り組む課題に焦点を当てた活動ができるようになったこともあり探究の質・量ともに充実していると感じている。

しかし、「全体での活動がなく、意思統一ができているのか。」や「いつも班別の活動なのでメリハリがない。」といった意見が、各班を指導する職員から寄せられた。明確なゴールや指導案のない活動に不安を覚える職員も少なからず存在することを考慮し、職員に対するサポートや研修を検討したい。

（イ）改めて感じた協働の効果

以前から、「地域との協働によって、生徒の活動の質が上がる」と漠然と考えていた。しかし、上天草プロジェクトⅡでの探究活動において、地域人材と一緒に活動した生徒の成長を強く感じ、漠然とした考えは実感となった。

今までは少数の有志生徒が地域に飛び出し、様々な活動を行い、成長をする姿を見てきた。「生徒全員が、授業の一貫として」地域人材と触れあうようになり、右の図に示したような効果の差が強く感じられるようになった。



現在のところ、それを証明するデータを示すことはできないが、少なくとも本校職員の多くは、「地域との協働は生徒の成長を加速させる。」という手応えを感じている。

（３）地域起業研究（2 学年普通科 1 単位）

①目的等

地域現状の課題に対し、論理的思考によって解決の糸口を導き出す力を「起業」を通じて育成する。論理的に課題に取り組む姿勢を身に付けることは、数学、英語、理科、情報、家庭、地歴・公民等とも密接に関わりがあるため、関連付けて融合しながら学び、応用する力の育成を図る。

②内容

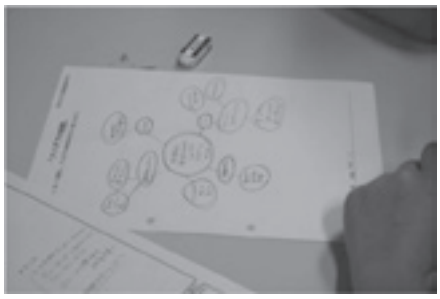
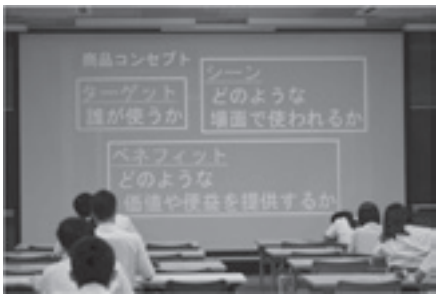
「地域における起業」をテーマにし、上天草プロジェクトより限定的な課題を設定し、専門家によるレクチャーを受けながら課題解決（作品制作）に取り組むことで、より自由な発想で探究活動を深化させるための、知識・技能・態度を養う。具体的には、「商品の開発と流通」「ウェブページの制作とデザイン」「情報コンテンツの制作」に取り組んだ。専門家による授業及び企業との協働活動を実施する予定であった。

しかし、コロナ禍の影響でスケジュール調整がうまくいかず、商品開発において試作までたどり着くことができなかった。

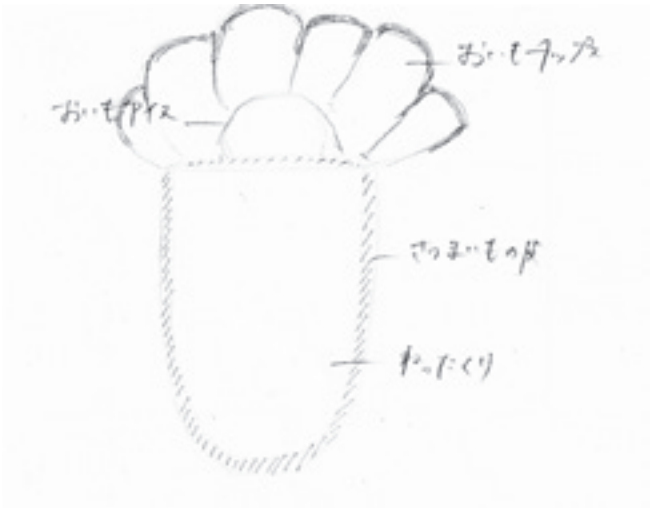
【具体的内容】

期日	内容
6 月 2 日	商品開発と流通 1【開発手順と環境分析】
6 月 9 日	商品開発と流通 2【開発テーマの設定】
6 月 16 日	商品開発と流通 3【市場調査】

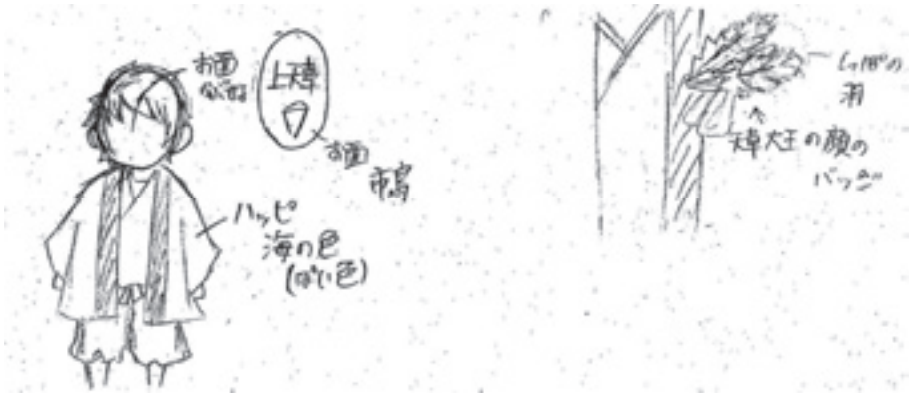
6月23日	商品開発と流通4【商品コンセプトと発想法】
7月14日	商品開発と流通5【企画書作成実習①】
7月21日	商品開発と流通6【企画書作成実習②】
7月28日	商品開発と流通7【企画書作成実習③】
8月25日	商品開発と流通8【企画書の修正】
9月1日	商品開発と流通9【プレゼンテーションの基礎】
9月8日	商品開発と流通10【プレゼンテーション実習①】
9月15日	商品開発と流通11【プレゼンテーション実習②】
9月29日	商品開発と流通12【プレゼンテーション実習③】
10月20日	商品開発と流通13【プレゼンテーション実習④発表】
10月27日	情報コンテンツの制作1【研究開発ポスター制作の秘訣】
11月4日	情報コンテンツの制作2【撮影の基礎と著作権】
11月10日	情報コンテンツの制作3【動画編集ソフトの利用】
11月17日	情報コンテンツの制作4【動画制作実習①】
12月1日	情報コンテンツの制作5【動画制作実習②】
12月8日	情報コンテンツの制作6【動画制作実習③】
12月15日	情報コンテンツの制作7【動画制作実習④】
1月12日	情報コンテンツの制作8【制作動画発表】
1月19日	Webページとデザイン1【Webページの基礎】
1月26日	Webページとデザイン2【webページの制作方法】
2月2日	Webページとデザイン3【webページ制作実習①】
2月9日	Webページとデザイン4【webページ制作実習②】
3月16日	Webページとデザイン5【webページ制作実習③】

【商品開発企画書の例】

商品名	まるごとかんちょ
商品コンセプト	ターゲット：若者１０代～２０代　おやつでダイエットをしたい人 ベネフィット：糖質カット、カロリーオフ　上天草の郷土料理 シーン：①地元のおやつを洋菓子店で ②観光客のデザートを観光スポットで
キャッチコピー	おいもづくしのスイーツ
商品イメージ	
開発背景	・おいもを丸ごと使い、無駄なものをださない。 ・上天草のかんちょの存在を多くの人に知ってもらいたい。
他にはない魅力 ﾊﾞﾘｭｰﾌﾟﾛﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	・がねあげやねったくりといった調理法で製作する。 ・地元の郷土料理を若者向けに。観光客に郷土の味を！

商品名	空洞タピオカ
商品コンセプト	今はやりのタピオカ ターゲット：高齢者、小さい子がいるファミリー向け ベネフィット：詰まっても大丈夫なタピオカ シーン：おやつ
キャッチコピー	新戦力～空洞タピオカ～
商品イメージ	
開発背景	・タピオカを飲んでいるときにのどに詰まった人がいるという話を聞いたので形を変えたタピオカを開発した ・ターゲットは、高齢者、ファミリー向け ・空洞になっているので、つまらなく安心して飲める ・今までにない感触
他にはない魅力 ﾊﾞﾘｭｰﾌﾟﾛﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	・喉に詰まる危険性がなくなる ・家族みんなで飲める

商品名	好守海人（こうしゅあま）
商品コンセプト	・ターゲット：１０代～２０代　男女（観光客） ・ベネフィット：上天草の魅力を伝えられるキャラクター
キャッチコピー	上天草の魅力伝えます「好守海人」
商品イメージ	
開発背景	・普通の商品開発とは違うことをしてみたい ・キャラクター自体を売り出したい ・上天草市にはゆるキャラなどのキャラクターがあまりない
他にはない魅力 ﾊﾞﾘｭｰﾌﾟﾛﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	・キャラクター自体を開発することで継続的に効果 ・キャラクターの商品が売れると、その他の商品も売れる。

③成果と課題

（ア）探究を深化させる手法の実践

本校の探究活動の中核となる学校設定科目「上天草プロジェクトⅠⅡⅢ」は、地域との実践活動に重きを置いている。それゆえに探究を深めるために必要な手法の習得に割く時間は少ない。それを補う科目が「地域起業研究」であり、商品開発などの限定的なテーマ（課題）を設定し、様々な解決のための手法を実践する機会をつくりだすことができた。また、ほとんどの課題に個人で取り組ませ、研究の成果よりすべての作業を経験させることを重視した活動ができた。

（イ）地域と協働した活動の未実施

本来の計画では、各単元において地域人材との実習が予定されていた。コロナ禍による休校及び直接接触への不安により、地域人材と協働した活動を実施することができなかった。個人での活動重視の設定であったため、ニーズに応じたコーディネートの難しさにも直面した。

次年度は、より限定したテーマ（課題）を用意し、協働する地域人材を絞り込むことで、より実践的な授業となるようにしたいと考える。

2　地域と協働した課題解決活動

以前までの協働活動の多くが、「会議に出て意見を述べて欲しい。」「新商品の販売を〇月〇日にするので、商品開発に参画しませんか。」など“大人主体”でレールとゴールが用意されているものが多かった。しかし、本事業に取り組むようになり、「生徒の△△の活動とコラボしたい」「イチから一緒に考えませんか」といった、“ゼロからイチをつくりだす活動”が増加した。その分、生徒が身につけなければならない知識等も増え、“学ぶ”という機会も増えた。カリキュラムで“何を教えるか”より“何で教えるか”。学ぶための機会と場所を地域と共に用意できたことが、生徒の成長に繋がったと考える。今年度の活動をいくつか紹介する。

（1）地域の特産品を使った商品開発

地域の特産品を調べていた生徒が、「売れ残りや規格外の農産物を加工して販売できれば、生産者は安定した収入を得ることができる。」という話を聞き、商品開発に着手した。本校の販売実習「上天草バザール」での実験販売を経て、商品化に向けた取組を進めている。

（2）宮津地区将来構想

各種公共施設が集積する上天草市宮津地区再開発に向け、上天草市の「宮津地区将来構想」の策定に参画させていただいた。まちづくりの専門家からレクチャーを受け、市役所のワーキンググループに参加し関係者とディスカッションしながら、開発のコンセプト策定に取り組んだ。ワークショップでは、未来の宮津地区のパース模型の制作やペルソナを作成し、未来の生活を想像するなど実践的な活動を経験した。最終的にコンセプトを「自然を五感で感じ、誰もが帰りたくなるまち」に決定し、将来像を具体的にしたパース模型とともに市に提案した。これをもとに市の開発計画が練られるとのことである。

（３）天草四郎発見本「しろう本」の制作

上天草市が計画する「天草四郎生誕４００年祭」。このイベントを盛り上げるべく、市役所観光おもてなし課と協働し、バーチャル部活動「上天草高校・天草しろう部」を立ち上げた。１６歳で一揆軍の総大将となった「スゴすぎる１６歳天草四郎」と、同じ１６歳前後の「上天草高校生」が時を超えてコラボする。その第１弾として天草四郎にまつわる観光スポット等を紹介する冊子の制作を行った。

取材テーマの策定→取材計画の立案→ラフ画の作成→取材の詳細立案→取材→レイアウト→記事の編集など、実践的な内容を専門家のレクチャーを受けながら実施した。完成したＡ４版１２ページの冊子５千部が市内各所に配られた。

（４）「新生活様式導入推進補助金事業」のステッカー制作

上天草市役所新型コロナウイルス感染症対策課から事業内容の説明を受け、市内各所に配布するステッカーのデザインを提案した。コンセプトを理解し、作成した原案を磨き上げるため、市役所の関係者と企画会議を重ねた。完成したキャラクター「あマスク四郎」のステッカーは多くの事業所で掲示されている。

３　「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト～「共通言語」ルーブリック～

（１）昨年までの取組

学校設定科目はもちろんのこと、すべての学科・教科科目において教科横断的に共通のテーマを設定し、授業改善の大きな柱として、「聞く」「話す」「表現する」等、どの教科でも必要になる力を、地域を巻き込みながら伸ばしていく取組である。

昨年度は、育成する地域人材像をもとに

①アイデアシートの収集・共有

②授業実践シートの収集・共有

③教科毎の年間指導計画の作成

④「聞く」「話す」「表現する」ルーブリック評価表の作成　を実施した。

ルーブリック表は、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトでの生徒の成長を評価するために作成し、校内の研究推進委員会とコンソーシアム委員会による修正を加えた。年２回の自己評価を実施し、成長の「見える化」を目指す。ルーブリック評価は、高校卒業までに身につけさせたい力を段階的に記述している。

（２）今年度の取組

ルーブリック評価表を『目指す人材像育成のための共通言語』と位置付け、全教科で授業改善の観点のひとつとして活用したことで、各教科の授業で積極的な取組がみられた。また、コンソーシアム委員会においては、ルーブリック評価表で明確になった「身につけるべき能力」の育成法を協議し、学校設定科目を中心としたカリキュラムの検討を実施した。

①教科毎の年間指導計画の改定

昨年度の取組をもとに、作成した教科毎の年間指導計画の改定を行った。この年間指導計画は適宜アップデートを繰り返していく予定である。

②アイデアシートと授業実践シートの収集・共有

日頃のちょっとした気づき・アイデアを記した「アイデアシート」と授業として実践した「授業実践シート」を収集し、校内ネットワークで共有している。

「全く新しい授業を生み出すことは難しいが、授業の一部でちょっとした工夫をすることを、全職員で積み重ねよう」という考えが職員に浸透したことで、負担なく取り組むことができた。